

寄せ植えの基本を考えよう

石川花の会 土屋 照二

最近はこちらで花の寄せ植えが見られる

園芸店でも出来合いの寄せ植えが売られている

「緑の相談広場」でも寄せ植えの実技講習がある

寄せ植えは「大阪花博」前後から盛んになってきた イングリッシュガーデン、ナチュラルガーデン

今回は寄せ植えってな一あに、ということで少し考えてみましょう

◆正月の定番寄せ植え：松竹梅

以前は暮れになるとマツ、タケ（ササ）、ウメにヤブコウジやフクジュソウ等を添えた、いわゆる正月用松竹梅の寄せ植えが店頭に並び、あちこちで講習会が行われた

テレビや新聞でも風物詩として報道されていたが、最近では見かけられない

松竹梅の寄せ植えはどのように扱われていたのか

- ①もともと別々に育てられたものが1つの鉢に植えられたもの
- ②それぞれが1つの鉢内で元気に特徴を生かしながら育つのは困難
- ③観賞が終わったら別々の鉢に植えて管理し、時期がきたらまた寄せ植えする
- ④地植えすればそれぞれ立派に育つが、ササは地下茎が走りあちこちで芽を出す

以上のように、3種類は別々の植物という認識があり、このことは寄せ植えをするときの基本的な考えとなる

◆育てる寄せ植えか、装飾を主とした寄せ植えか

寄せ植えをするときの重要な考え方

- ①「育てる＝育つ過程を楽しむ寄せ植え」を中心に考えるなら、極端に性質が異なる種類の組み合わせは避け、あらかじめ各種の成育スペースを予測して植える
- ②「育てる」を中心に考えるなら、お互いの競合を避けるためそれぞれの種類にあった方法で、こまめな整枝等の管理が必要
- ③「装飾＝その時だけきれいに飾る寄せ植え」が主なら、一定期間もてば良いのだから多めの材料を華やかにアレンジすれば良い
- ④「装飾」主の寄せ植えは、特に秋以降は作りやすい

◆それぞれ材料により性質が異なる

- ①「育てる寄せ植え」「装飾主の寄せ植え」いずれにしても植えられた材料は性質が異なる
- ②極端に異なるものは個別の鉢植えのまま大鉢にアレンジする方法もある

③特定の種類を好む人（収集家）はその種類だけの寄せ植えを

例) 多肉植物とサボテン

食虫植物

水生植物

◆最近の華やかな寄せ植え

最近では華やかな寄せ植えが好まれるようで、店頭にもきれいな商品が並んでいる

①基本的には性質の異なる植物が1つの鉢内で育っていること

②各々肥料の要求、水の要求、日当りの要求が異なる

③植物は成育しているし、それぞれの成育速度が異なり競争に負けるものがある

④春からの寄せ植えでは各種の成育が速くバランスが崩れやすいので各株の切り戻しなどのこまめな手入れが必要

⑤秋からの寄せ植えでは大きな成育がなく植えたままの状態が長く保たれるので、材料をかなり詰めて植えこむことができる

◆寄せ植えの材料について

①最近の寄せ植えでは、中心に木を配置し周りに宿根草、1年草を配するものが多い

②それぞれの成育期間がことなることが問題となる

③種類による成育期間、観賞期間の違いによって材料の入れ替えが必要

④種類による形態の違いに注意

根叢型…ガーベラ、ガザニア、シクラメン

匍匐型…ペチュニア、バーベナ、トレニアのある種

立性型